

カーボンの第二歩にLED化を

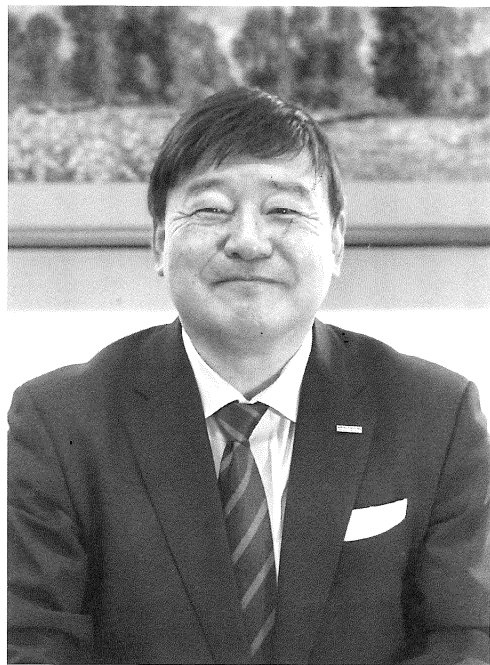
今、岸田政権の大きな政策の柱の1つにカーボンニュートラルがある。北海道の鈴木直道知事も全国でもいち早くゼロカーボン宣言を掲げ今道内市町村にカーボン都市宣言を呼びかけている。

■政府行動計画決定

政府が昨年10月21日に二酸化炭素削減目標を2030年度で現在の26%から46%へ嵩上げする閣議決定を行った。これが今後各地方自治体に具体的行動計画と目標値の改定

を求めていくことになる。

政府行動計画の具体的な対策は二酸化炭素排出量の少ない太陽光、風力、小水力、バイオマス、地中熱など再生エネルギーの導入、施設のZEB（ゼロエネルギービルディング）化、電動自動車の導入、既



(株)あかりみらい代表取締役
越智 文雄 さん

道の機運に乗るべきである。北海道は全国が羨むほどの再生エネルギーの適地であり現実には多くの太陽光、風力プロジェクトが軒を連ねている。2008年に北海道洞爺湖環境サミットが開催され日本地球温暖化問題を議論する嚆矢となった。

■空き容量問題

今回のゼロカーボン都市宣言の検討に当たっては、自治体の首長からは太陽光にしろバイオマスにしろ大きな投資を伴い、さらに北海道電力の送電線の空き容量という大きな課題があり実現が難しいという声を聞く。これだけの地域資源を持つ北海道で送電容量の問題で地域のカーボンニュートラルへの取り組み

が着手できないとするならば、空き容量問題について第三者機関によるしつかりした検証を行うべきである。空耳とは思いますが、どこかで泊原子力発電所が再開するときのために送電線容量をとつてあるかのような説明がされている。だが、電力需給は需要に見合った送電をするのであり泊発電所が供給源となるならば当然老朽火力発電所は停止される。送電線容量が泊再開によ

って左右されるという事は考えられない。

北海道がなんと恵まれた自然環境と地域資源の中にあるか。これに改めて気がついたのが昨年、大阪府のある市長から市全体のLED化の試算が欲しいというオファーに対してそのステップと効果について説明したときである。市長は本来はサービスク情報である全施設LED化による二酸化炭素削減量について大きな関心を見せた。市長室の窓から外を見ると見渡す限りビル、

■2030年100% LED化

ビル、ビル。このような土地柄でどんなカーボンニュートラル実行計画を立てることができると言うのか。たまたまこの市は早い時期にゼロカーボン都市宣言をしており、その対策に頭を悩ませていたのである。いわば既存照明のLED化は、全ての自治体でも全ての企業でも取り組むことのできるゼロカーボン対策の基本であり第一歩である。

政府は政府施設の2030年100%LED化を宣言した。日本中のすべての施設は2030年をめどに完全改修していかななくてはならない。少しでも早く着手することが財政にも寄与することになる。今、カーボンニュートラル行動計画に全施設のLED化をその第一歩の取組みとして盛り込むべきである。

あかりみらいのホームページにこのビジネスモデルの動画を掲載してあるのでご覧いただきたい。自分のお金を使わずに大幅に削減された電気料金の中からLED費用を賄うのだから今すぐに着手できるのである。

北海道は残念ながら東日本大震災以降の電力危機対策に東北地方や関東、関西と違い、LED省エネ設備投資という選択肢ではなくひたすら節電と間引きで対応してきた。今、北海道が環境先進地域として、再生エネルギー基地として、全国に先駆けてカーボンニュートラルの着実な実績を見せるには、全ての公共施設や街

あかりみらいシミュレーション人口規模別試算例(一部) 2021年12月現在

市町村名	人口	対象施設数	設備・工事費計(千円)	年間電気料金削減額(千円)	リース支払後年間メリット額(千円)※	電気使用量削減率(%)	投資回収/年	CO2年間削減量(tCO2/年)	備考
苫小牧市	169,800	119	613,116	175,707	102,134	64.9%	3.5	3,335	提案済
石狩市	58,200	147	318,970	74,471	34,473	68.6%	4.3	1,235	工事中
七飯町	28,000	36	138,027	26,314	10,727	67.5%	5.2	438	提案済
名寄市	26,700	33	261,627	44,397	13,003	66.0%	5.9	742	工事中
富良野市	20,800	41	135,236	29,949	15,471	72.8%	4.5	516	工事済
士別市	18,000	18	56,949	18,496	13,204	66.1%	6.4	391	工事済
安平町	7,500	18	38,183	9,189	4,282	75.1%	4.2	159	工事済
厚真町	4,400	10	44,879	11,849	6,463	72.3%	3.8	204	工事済
沼田町	3,000	36	64,000	11,869	3,421	71.6%	5.4	194	工事済
月形町	3,000	14	27,679	7,608	3,955	72.6%	3.6	131	工事済
南富良野町	2,400	42	61,120	15,274	5,540	73.6%	4.0	284	工事済
留寿都村	1,900	20	51,679	11,490	5,289	67.4%	4.5	204	工事済

※メリット額は10年分割リース料支払い後の電気料金削減額との差を試算

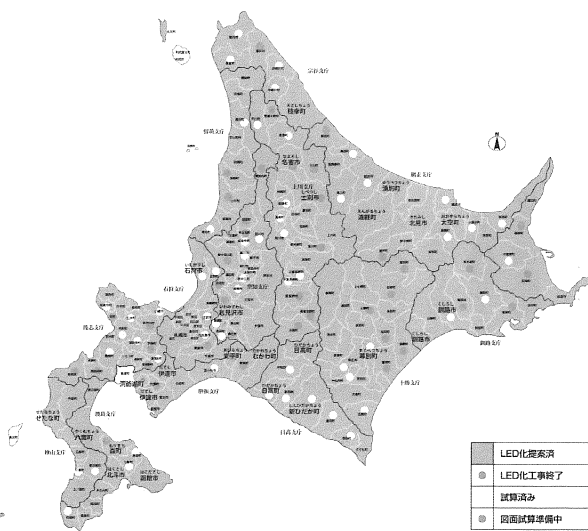
路灯を一気にLED化するこれが最善の選択肢である。自治体の新たな予算を必要とせずに70から80%の大幅な省エネによる財政への貢献と、それがそのまま二酸化炭素削減になるという「費用がからないカーボンニュートラル対策」はLED化だけなのである。今までこの膨大で面例な見積もりが誰にもできなかったことで全市のLED化計画も立てなかったのだが、今、照明配置図の図面から積算するプログラムの開発で正確な試算ができるようになった。

■新あかり未来計画

東日本大震災の未曾有の電力危機から始まった政府「あかり未来計画」が今カーボンニュートラルという新しいパラダイムのもとで「新あかり未来計画」として生まれたのである。179自治体が参加するであろう北海道のカーボンニュートラル宣言をかけるだけでなく実現していかなくてはならない。(寄稿)

北海道内の自治体施設一括LED化状況

あかりみらいでは2021年12月現在、全道179の自治体のうち9割以上に提案を行い、半数以上の自治体に試算書を提出。50以上の自治体で既にLED化を終了、着手の準備をしています。



LED化進捗状況
LED化工費完了
試算済み
計画段階

(株)あかりみらい
札幌市北区北11条西2丁目
セントラル札幌ビル4階
TEL 011-8676-0820
HP <https://akarimirai.com/>